

# 声とことばのシンポジウム

表現者としての声、言葉、今そしてこれから

芸の日本語を考える

近年社会は仕組みや方法、価値観まで急速に変え、インターネットの行く末は予想さえつかないのが現状です。一方、日本語への関心が高まり、生涯学習 自己実現の流れも加わり、声とことばの芸を手染める人達が多くなっております。このような社会変化の中で芸能者は「日本語のつき」に注意深く関心を寄せるべきです。それは音声や言語は人が普遍性を追求する無二の道具であると同時に、個々の生活の中で常に止まる事を知らぬ社会生態と二重性を持っているからです。他人と喋らない人、他人が理解し難い自分語や音声を乱発する人等、言語の機能すら

疑われる状態が始まっています。このような状況の中で私達芸能者は、日本語をどう理解し、いかなる立場に立ち、どの様に表現したら良いのでしょうか。芸能の創造性や自由性を保ちつつ、蓄積可能な芸能を行うには、声やことばをどの様に捉えればよいのでしょうか。改めて「声とことば」を考えてみたいと思います。伝統芸能、現代劇を中心に、言語研究の方々にも御参加いただき、議論の輪をひろげ深めたいと願っています。舞台芸術各ジャンル、実演家、作家、スタッフ、研究者、音声言語研究分野、教育界、等広範の方々がされます様御願ひ申し上げます。

日時 2005年 8月 5日(金)・6日(土)・7日(日)

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟、国際交流棟、カルチャー棟

主催:OWS(オペラ・ワークショップ) 共催:声とことばシンポジウム委員会

後援 社団法人日本芸能実演家団体協議会 協力:シアタープランニングネットワーク エイブル・アート・ジャパン

参加費:5,000円(学生3,000円)1日のみ3,000円(学生2,000円)

エキジビション:2,000円 懇親会:3,000円 ワークショップ 各2,000円

問い合わせ・申し込み OWSシンポジウム担当

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-5-3-203 TEL・FAX:03-3348-4158 E-mail:symp@ows.ne.jp